

初版第 7 刷と第 8 刷は全く同じものです。

ページ数や行数は、初版第 7,8 刷のもので、それ以前の刷とは、最大で 1 ページずれていることがあります。

ミスプリントなどを修正するために必要な、加筆・修正・変更点

なし。

間違っているわけではないが、わかりやすく改良するための加筆・修正・変更点

- p.29, 3.1.2 節 最初の段落の最後  
確率分布だけで定義される      確率分布だけで区別される
- p.37, 3.4 節 冒頭の文章を以下のものに差し替える ( $\hat{A}|\psi\rangle$  の意味を付記しました)  
次に、ベクトルを別のベクトルに移す写像<sup>\*8)</sup>を考える。その写像を  $\hat{A}$  と記し、 $|\psi\rangle$  が  $\hat{A}$  で移った先のベクトルを  $\hat{A}|\psi\rangle$  と記すことにする。特に、
- p.37, 3.4 節 最初の数学定義 (上記の改訂文に合わせました)  
 $\mathcal{H}$  における線形写像      ( $\mathcal{H}$  から  $\mathcal{H}$  への) 写像  $\hat{A}$  が、線形写像であるとき  
を満たす ( $\mathcal{H}$  から  $\mathcal{H}$  への) 写像  $\hat{A}$  を      を満たすとき、 $\hat{A}$  を
- p.47, 式 (3.59) の上の文章  
互いに直交している保証はない。そこで、  
  
互いに直交している保証はない。一方、これらの線形結合も固有ベクトルである。そこで、
- p.62, 2 行目  
任意のベクトルのノルムが非負  
  
どんなベクトルも自分自身との内積は正またはゼロ
- p.69, 式 (3.143) の、両辺とも、 $x$  と  $x'$  を入れ替える。
- p.91, 枠で囲った、交換する物理量の完全集合の定義  
残りの物理量の関数としては表せないとする。  
  
残りの物理量だけの関数としては表せないとする。
- p.96, 3.24 節冒頭の文  
固有値を固有エネルギー (eigenenergy), 固有ベクトルをエネルギー固有状態 (energy eigenstate) と呼ぶ。時間発展が  $\hat{H}$  で支配されているので、これらは重要な役割を演ずる。
- 固有値をエネルギー固有値 (energy eigenvalue) とか固有エネルギー (eigenenergy), 固有ベクトルをエネルギー固有状態 (energy eigenstate) と呼ぶ。量子系の時間発展において、これらは特別な役割を演ずる。
- 索引に次の項目を加える  
エネルギー固有値 (energy eigenvalue), 96

以上